

■地域医療遠隔支援・人材育成事業

筑波大学 陽子線医学利用研究センター
センター長 櫻井 英幸

本県の放射線治療の均てん化および水準の向上を図ることを目的に、がん診療連携拠点病院や茨城県がん診療指定病院、さらには診療放射線技師の養成を行っている県立医療大学の13施設を「いばらきブロードバンドネットワーク」を利用した多地点テレビ会議システムで結び、筑波大学附属病院（放射線腫瘍科）が中心となり、放射線治療支援・人材養成を行っています。治療支援に関しては放射線照射の範囲や照射回数等の治療計画及び放射線治療装置の線量管理等の相談・支援を行っています。

また、人材養成として、筑波大学附属病院が行う症例検討会を毎朝、医学物理士、診療放射線技師、看護師のそれぞれを対象とした勉強会を定期的に行っています。



土浦協同病院 がんセンター長兼放射線科部長
大原 潔

がん対策基本法の目標の一つに放射線治療の充実があります。充実（充足）には人と物の二面がありますが、人の充実には永い時間が必要です。一方、物の充足は予算措置がされれば実現できます。こうしてできたのがテレカンファレンスシステムです。

充実した放射線治療は、チーム医療（放射線腫瘍医・放射線技師・看護師・医学物理士など）を基本とし、重要なことは諸診療科と緊密に連携することです。その要となる医師が常勤する県内施設は7/20に過ぎません。多くの施設では非常勤医と放射線技師とで放射線治療を行っています。



本システムは13治療施設に設置され、筑波大学放射線腫瘍科を中心に運用が開始されました。鮮明な映像も送受信できます。大学からは放射線治療カンファレンスや物理の講義などを、当院からは放射線治療勉強会を配信し、まず施設間交流を強化することから出発しました。他科の方々にも活用していただければと思います。

是非とも茨城県にお力添えを

去る3月11日に発生した東日本大震災により、茨城県でも大きな人的、物的被害が生じ、医療の分野においても診療機能の縮小等を余儀なくされるなど、県民生活に大きな支障をきたしましたが、現在は、県民一丸となって、県民生活や地域の復旧・復興に取り組んでいます。

特に地域医療の復興につきましては、被災した医療施設の早期復旧をはじめ、災害時に活躍する医療情報ネットワークシステム、県北及び県西地域における三次救急医療や災害拠点病院機能を担う中核病院の整備など、今回の震災を教訓とした「災害に強い医療体制の構築」を目指し、医師会や県内各医療機関、大学、行政など関係者が全力を注いでいこうとしているところです。

こうした構想の実現のためには、医師をはじめ、これまで以上に多くの皆様の力の結集が不可欠です。全国の医師、コメディカル、医学生をはじめとする医療関係者の皆様には、このような本県の状況と未来に向けた姿勢をご理解いただき、是非とも、本県の医療機関での勤務や研修を通じ、「いばらき」の復興と県民が安心できる医療体制の構築のために、お力添えをいただけますよう心からお願い申し上げます。

敬具

茨城県知事 橋本 昌

茨城県医師確保支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内)TEL:029(301)3191

http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp

いばらきの
地域医療

2011年9月

第25号

■発行・編集／茨城県医師確保支援センター

「水郡医師会による大子町における地域医療研修会」を開催

社団法人 茨城県水郡医師会
事務局長 吉原 照夫

水郡医師会では、8月4日(木)・5日(金)の2日間にわたって「医学生を対象とした地域医療の最前線を体験する地域医療研修会」を開催しました。大子町の医療現場を現役の医学生に見てもらい、将来、地域医療に携わるきっかけになってもらえればと思い計画しました。参加の呼びかけは、ホームページで行い、その結果、7人の応募がありました。ただ、直前に1人キャンセルがあり、6人の参加となりました。男子学生3人、女子学生3人です。

初日は、まず、大子町や近隣の医療状況について説明し、理解をしていただきました。その後、町内の医療機関を全員で見学しました。最後に当日の救急当番病院で、待機している様子などを見ていただきました。見学終了後、医師会の先生や県、保健所、町担当者を交え、学生との意見交換会を行いました。

翌2日目は、午前中いっぱいをかけて、町内に6か所ある医療機関にそれぞれ1人ずつ入っていただき、診察の立ち会いや、往診あるいは訪問看護の同行などの現場体験をしていただきました。

最後に、今回の研修会に参加しての感想や、今後の抱負などを一人一人に述べていただき、閉会しました。

参加した学生から

- ・地域医療の第一線で活躍している方々の真摯な姿、医療現場と連携をしてその地域全体を支えている行政の方々など、普段の勉学のうえではなかなかみることのできない雰囲気を経験することができ、非常に貴重な経験となりました。
- ・他の大学の学生や大子町の先生方の話を聞き、視野を広く持つことが大事だと感じました。特に、長年地域医療に携わってきた先生方とお話できたことは大変貴重な機会でした。



大子町

茨城県北部に位置し、日本三名瀑の一つである袋田の滝、清流で知られる久慈川、県内随一の奥久慈温泉郷、そして県下最高峰の八溝山など自然豊かな町です。

大子町が属する常陸太田・ひたちなか保健医療圏は、人口10万人当たりの医師数が90.9人と全国平均(224.5人)の半分以下であり、医師不足の解消が喫緊の課題となっています。

大子町は、数少ない医療機関が輪番制により24時間体制で二次救急医療を支えている特徴ある町で、地元の医師が協力して地域医療を支えています。



「求められる支援に合わせた個別の対応が必要です」～女性医師からのメッセージ

筑波大学附属病院で消化器内科医として勤務し、同病院の女性医師キャリア支援コーディネーター、茨城県女性医師就業支援相談窓口のアドバイザーを務められている瀬尾恵美子先生に、医療の現場で求められている支援を中心にお話しいただきました。

…女性医師の就労についての課題は？

昔から、女性医師の就労はいろいろ大変なことがあったと思います。今は、昔に比べて、女性医師の数自体が増えていきます。筑波大学でも今年、医学部に入学した1年生の5割が女性です。こうなると、男性・女性という問題は少なくなってくると思われそうですが、ジェンダーの違いはありますので、それを尊重して互いにやっていかなければと思います。以前は男性が圧倒的に多かったですから、支えてもらうという形でしたが、これからは支え合うということが必要ではないでしょうか。

それに、人によって科によって、理想とされる働き方というのが全然違うので、個別の対応をしなくてはいけないですね。同じ女性医師でも、所属する科、結婚する年齢や子どもを持つ年齢によっても、どんな支援を欲しがっているかはそれぞれ違います。それに合わせて個別に対応できるように、きめ細かさが必要なのかなと思います。

すべての人にまったく同じ働き方というのは、どんな職種でも難しいことだと思うので、その人、その人に合った働き方が選択できてほしいと感じています。

●女性医師のキャリアアップを支援しています。

…筑波大学附属病院のキャリアアップ支援システムとは？

筑波大学女性医師看護師キャリアアップ支援システムは、平成19年度に文部科学省の「社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」に採択された取り組みです。プライベートと両立し、専門職としてやりがいを感じながらキャリアを重ねていけるような働き方の構築を目指しています。

補助金としては平成21年度までだったのですが、その後も継続して取り組み、年間5～6人の支援枠での採用者がおり、現在までに20人以上が筑波大学で研修を受けています。卒業後3年から12年と幅広い年代で、内科、小児科、外科、眼科などさまざまな診療科目の先生に参加していただいています。

…筑波大学独自のシステムがつくられているのですか？

3本の柱を中心としたシステムです。1つ目は、キャリアカウンセリングです。システムに参加する女性医師個人の希望に合わせた研修プランを、キャリアコーディネーターと一緒に相談しながら決めていくというもので、キャリアコーディネーターは私が担当しています。カウンセリングは研修に関してのみではなく、再就職支援やメンタルヘルスケア、お子さんの保育のことなどにも対応しています。2つ目は、診療・研修のコーディネートです。カウンセリング結果を基にして、支援を受ける期間にどんな研修や診療を行うかを、コーディネーターと本人（女性医師）、所属する診療科の先生と相談しながら決めていきます。

3つ目は、環境の整備です。これは、病院全体で取り組んでいただいています。例えば、短時間勤務制度を活用できたり、福利厚生や母乳育児支援として搾乳室を整備していただいたり、

筑波大学附属病院
消化器内科医師 瀬尾恵美子



病院紹介コーナー

茨城西南医療センター病院

当院は約300床の急性期病院で、県西地域の基幹病院です。中規模病院ですが救命救急センターを有しており、地理的に千葉、埼玉、栃木県と隣接しているため、県内だけでなくこれらの地域の患者も受け入れています。当院の特徴は、医療崩壊がしきりに叫ばれている救急医療、周産期医療、小児医療を中心として地域医療を支えていることです。

医師臨床研修については、現在当院基幹型研修医は年1人程度ですが、筑波大学の協力型研修医は常時6、7人在籍しています。救急医療を中心に数多くの症例を経験しています。1次から3次救急まで対応しているため、初期対応から気管内挿管、中心静脈ライン挿入、胸腔ドレーン挿入など難度の高い手技も経験可能です。また希望の診療科を筑波大学で一定期間研修することも可能です。指導体制は中規模病院としての利点で、きめ細かな指導を心がけています。各診療科

の指導医とともに研修していく体制ですが、他科へのコンサルテーションも気軽にできるようになっています。

研修医時代に幅広い医療を数多く体験し、知識と技術を修得することは、医師としてどの方面に進もうともきわめて重要です。当院の症例、スタッフ、設備等の医療環境で研修することは、これらを可能にできると考えています。また、医療はあらゆる職種の人が助け合いチームで行うものですが、研修医も人の和の上に成り立つチーム医療の一員になってもらっています。
(内科部長 飯塚 正)



平成24年度完成予定

e-learningを活用できるシステムづくりをさせてもらっています。一番大きいのは、附属病院の保育所をつくっていただいたことです。去年までは筑波大学の保育所を使っていましたが、今年の1月から新しく病院職員専用の保育所が開設され、以前より時間も柔軟で、365日子どもを預けられるようになりました。

●茨城県女性医師就業支援相談窓口のアドバイザーでもあります。

…どのような相談窓口なのですか？

女性医師就業支援相談窓口は、出産・育児及び離職後の再就職に不安を抱える女性医師に対し、出産・育児等と勤務との両立を支援するための助言や復職・キャリアアップのための技術研修病院の紹介等を行い、女性医師等の離職防止や再就職の促進を図っています。

県内のいろいろな病院をご紹介でき、研修についてもその方に合わせてご相談を受けることができます。大学病院での研修は敷居が高いという方も、最初の一步として気軽にご相談いただけるとと思います。電話でのアドバイス以外に、直接お会いして相談を受けることも可能で、子育てしながら働く女性医師などの相談に、3人のアドバイザーが対応しています。まずは、お気軽にお電話ください。(詳しくは下の案内をご覧ください。)

茨城県からのお知らせ

■女性医師就業支援相談窓口のご案内

- 女性医師等に対する保育に関する相談
- 県内の保育サービスの紹介及び病院における子育て支援情報の提供
- 技術研修病院の紹介等
- 就業を希望する病院の情報提供

相談の内容やご希望により、現役の女性医師のアドバイスをうけることができます。ご相談は、電話、FAX、メールで受け付けています。

茨城県医師会
〒310-0852 水戸市笠原町489
電話 029-241-7467
フリーダイヤル 0120-107467
FAX 029-241-7468
メール i-dr.support@au.wakwak.com
受付：水曜日を除く、月～金9:00～16:00
※土、日、祝日および年末年始はお休みです。

Relay Essay 研修医リレーエッセイ

水戸医療センターで初期研修を開始して、早いもので半年がたとうとしています。循環器内科、呼吸器内科をまわり、徐々に仕事にも慣れてきました。自分の学んできたことを振り返る時間も多少持てるようになり、自分の知識の無さを実感し勉強に勤しむ毎日です。

水戸医療センターの特徴ですが、三次救急を担当しているため、自然と最重症の患者さんの比率が高くなっています。そのような、一刻一秒を争うような患者さんに対して、どのような対応をしていくかということ、指導医の先生のもとでチームとして考え、治療を行う、ということが他の病院にはあまりみられないうちの病院の特徴ではないかと思えます。

独立行政法人 国立病院機構
水戸医療センター
初期臨床研修医 塚田 和明



研修を通して、学生時代には見えなかったことが見えるようになり、科に対する自分の持っていた印象も大きく変わってきました。初期研修の期間は、自分の将来の方向性を決定するうえでとても重要な期間だと考えているので、残された研修の期間を精一杯頑張り、将来の糧にしていきたいと思えます。

塚田先生（左から2人目）には8月24日（水）に同センターで開催した研修生交流会に参加いただきました。

